

現地支援委員会が発足しました

さる6月30日、第1回現地支援委員会が行われました(会場:仙台北教会)。当委員会は、連盟の災害対策本部のもとに設置され、現在のところ、東北連合の役員を中心に、様々なメンバーを加えて構成されています。

主な活動内容は、被災地支援活動のための費用の自主的な決裁と、月に1度の会議で、エリアごとの活動状況と課題を共有し、互いに祈り合うことです。まだ、委員会としての活動は手探りの状態ですが、エリア独自の課題に個別に向き合いつつ、協力していきたいと思っています。(写真は、遠野ボランティアセンターにて行なわれた第3回現地支援委員会の様子)



原発事故に対する対応



5月、6月、8月に原発に関する講演会を行いました。最近の8月の講演会では、大人向けの話の他、小さなお子さん向けに、子どもでも分かる易しい放射能のお話や、野菜や果物、魚・肉等をどのように調理すると放射線を取り込むことを減らすことができるのかを、実験や資料を通してお伝えしました。行政の対応のあいまいさに対する不信感と、放射能の被害の恐ろしさに日々不安とストレスを抱える私たちにとって、正確な知識を持つための大切な学びの時です。このような講演会を、これからも随時続けていきたいと思っています。

福島での働き

福島は、既に皆さんがお祈りに覚えて下さっているように、津波・地震被害に加え、現在進行形で続く原発事故被害という特有の問題に直面してきました。そこで、郡山コスモス通り教会では、1. 原発事故に対する診断 2. 原発事故に対する対応 3. 避難所・仮設住宅への支援活動の三つを柱として、震災直後から今日まで取り組んでいます。

今号に掲載していない被災県内の教会・伝道所の様子も、次号以降、順次お知らせしていきます。

避難所・仮設住宅への支援活動

喫茶コーナー(郡山市青少年会館避難所にて) 学習ボランティア、傾聴ボランティアの他、駄菓子やコーヒー、マッサージなどを提供する喫茶コーナーを計5回行いました。



あおぞら市場(緑が丘の仮設住宅)

7月に入り、連盟の諸教会から寄せられた食器、タオル、ティッシュ、ラップ等の生活用品や毛布、調味料、のれんをお渡しでき、大変喜んでいただきました。仮設住宅への移転に伴い、生活物資の提供が改めて必要な時期であることを実感しています。次回は9月に行う予定です。

原発事故に対する診断

早い時期から連盟を通じて放射能測定器を入手し、各地域での放射能の値を確認してきました。行政の公表する値とのギャップに愕然としつつも、自ら測定することで客観的に現状を知ることができました。



「今、向き合わなければならない課題は、難しく、時には現実から逃げたくなることもあります。このような時だからこそ、みんなで励まし合い、支え合って、共に一歩一歩進んでいきたいと思いました。生活で困っていること、悩んでいることがあったら、ぜひ教会に足を運んでください。共に向き合い、考えていきましょう。」(郡山コスモス通り教会ブログ『コスモスのつぐやき』8月11日より)

<http://cosmos-tweet.sb1o.jp/>



祈りの課題

原発事故が一刻も早く収束しますように。
除染作業が速やかに行なわれ、子どもたちが安心して過ごせる環境が整いますように。